

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、夜間を想定した避難訓練を継続して実施しているが、入居者の生命を守り、安全を確保するためには、近隣の人達の協力、連絡・協力体制の確保が不可欠である。よりきめ細かな避難訓練や災害対策が必要となっている。	火災だけでなく、風水害や地震を想定した防災訓練を地域の人達と協力して実施する。特に入居者の安全確保が迅速に行われるように防災計画を見直し、訓練を行う。	今年度、グループホームのスプリンクラーの設置を完了した。今後、新たに事業を開始する「小規模多機能ホーム」との連携のもとに、風水害・地震も含め、災害を想定した訓練を地域の人達の協力をえて実施する。	8 か月
2	4	運営推進会議は、3ヶ月毎に開催し、事業所の近況報告や意見交換を行い、事業活動に生かしているが、テーマ設定の工夫や2ヶ月ごとの会議開催が課題である。	2ヶ月に1回の開催を目標とする。より関係者、地域住民に開かれた運営推進会議とする。	「くわのみ」の行事と運営推進会議を兼ねて実施したり、「小規模多機能ホーム」の運営会議との合同で開催したりなど工夫しながら柔軟な運営に努める。	8 か月
3	23	日常のケアの中で意思表示できる人に焦点をあてた話の展開や活動になりがちであり、そうでない人たちの気持ちや思いを汲みとったケアをいかに大切にするかが課題である。	入居者の心の中にある希望や生きがいを汲みとり、その実現に向けた支援が出来るように努める。	入居者の個々の能力にあった声かけ、介助を行いながら、職員間のケース検討を定期的に行い、「意思表示の少ない人」の思いや力を引き出せるような日常活動を工夫する。	10 か月
4	10	家族の思いや要望をじっくりと話し交流する機会が少ない。家族とのコミュニケーションを通して、家族の率直な気持ちを聴く機会を持つことが必要である。	グループホームのケアや運営につき、家族の意見や感想が反映できる機会や場を持つていく。	日常的に電話などを通して入居者の健康や生活の様子をこまめに連絡するとともに、面会時の話し合いや相談の時間の確保、家庭訪問等をさせていただく。	10 か月
5	26	ケアマネジャー、入居者個々の担当職員が本人、家族の意見を聞きながら、介護計画を作成しているが、モニタリングや評価が不足している点がある。	介護計画の実施状況のチェックや事後評価を職員チームで定期的に行い、本人・家族との話し合いや合意をはかる。	本人・家族との話し合いにもとづいた介護計画を職員チームで検討実施し、定期的なモニタリングと事後評価をていねいに行っていく。	10 か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。